

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：15401

研究種目：若手研究

研究期間：2022～2023

課題番号：22K18102

研究課題名（和文）軍港都市の観光地化に関する研究

研究課題名（英文）Research on the transformation of naval port cities into tourist destinations

研究代表者

張 慶在（Jang, Kyungjae）

広島大学・人間社会科学研究科（総）・准教授

研究者番号：50782140

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、東アジアの軍港都市が、戦争記憶の断絶と連続のなかでどのようなプロセスを経て観光地化されているのかを明らかにした。広島県呉市、台湾高雄市、韓国鎮海市（現、昌原市）の3つの軍港都市を対象とするフィールド調査から、戦後のナショナリズム、地政学的要因、また最近では少子高齢化による観光政策など様々な社会的・政治的要因が、ナショナルとローカルな戦争記憶の継承とのせめぎあいの中で、それぞれの地域における独特な観光地化が行われていることが明らかになった。さらに、そのプロセスの中で、大衆文化が重要な役割をしていることも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、戦争記憶が、国家レベルのみならず、ローカルレベルの集合的記憶によって特徴的に形成され、さらにそれが行政の観光振興政策、住民の地域づくりの中に如何に反映され観光地作りに寄与しているかについて、国際比較研究を行った。それによって観光学分野、特に文化遺産観光、ダークツーリズムの研究に新たな知見を提供することに寄与した。また、社会的意義としては、戦後80年を迎える今において、東アジアで戦争を如何に記憶し、その戦争記憶をどのように継承しさらに観光振興に活用するかについて喚起させることができた。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to clarify how naval port cities in East Asia have been transformed into tourist destinations in the context of the disconnection and continuity of war memories. From field research in three military port cities - Kure, Hiroshima Prefecture; Kaohsiung, Taiwan; and Jinhae (now Changwon), South Korea - various social and political factors such as post-war nationalism, geopolitical factors and, more recently, tourism policies due to the declining birthrate and ageing population, are at play with the succession of national and local war memories, the research clarified that each region has undergone a unique transformation into a tourist destination. It also became clear that popular culture plays an important role in this process.

研究分野：観光学

キーワード：軍港都市 観光化 大衆文化 戦争記憶 断絶 連続

1. 研究開始当初の背景

本研究の背景は、以下の2点である。

(1)(旧)軍港都市の観光地化に伴い、戦争記憶の連続と断絶、風化、戦争・軍隊の物語化(ファンタジー化)、プロパガンダの介入が見られることである。上杉(Uesugi 2019)は、広島県呉市の例をあげ、(旧)軍港都市が戦争記憶からの断絶を試みるが、東アジアの安保状況(韓国戦争など)により、連続として受け入れざるを得ない過程について説明する。一方で、申請者の予備調査から、最近の戦争関連の大衆文化(物語)が、呉において戦争記憶の連続や断絶とは異なる、脱脈絡的な消費をそそのかすことが見られた。一方で、台湾と韓国には、連続や断絶というプロセスに、戦後の植民経験を乗り越え国民国家を作ることに対する意志(プロパガンダ)が反映されている。

(2)(旧)軍港都市の観光・観光地化を総合的に、トランスナショナルな観点から分析する研究がほとんどないことである。(旧)軍港都市に着目した先行研究として、7巻のシリーズとして刊行された『軍港都市史研究』があげられる。特に、第2巻の『景観編』では、景観変遷をたどるほか、軍港都市に集う人々の特徴や、景観認知に関わる問題が紹介されており、観光学分野の先行研究として位置づけることができる。また、上杉(Uesugi 2019)では、地理学の観点から、舞鶴が如何に軍港都市となり、さらになぜ、21世紀に入って観光地として位置づけられたのかについて分析されており、本研究の問題意識と一致するところがある。なお、(旧)軍港都市がサブテーマとなっている研究も見られる(Seaton 2019; Sugawa-Shimada, A. 2019)。ただし、本研究で着目しているような、記憶の継承を観光地化を中心にトランスナショナルな観点から分析する研究は、まだ見られない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、なぜ東アジアの国や地域において特に2000年代以降に(旧)軍港都市の観光地化が進んでいるのか、どのような社会・政治・文脈が(旧)軍港都市の観光地化と絡み合っているのかを明らかにすることである。具体的には、鎮守府が置かれ現在日本遺産となっている日本の旧軍港4都市(横須賀、舞鶴、呉、佐世保)、日本時代に開発され現在韓国海軍の母港となっている韓国の鎮海、日本時代から現在まで台湾海軍の中心となっている台湾の高雄において、軍港という表象が社会・文化・政治の文脈と如何に絡み合い、特に2000年代以降の地域の観光振興(観光地化)と如何に関連しているかについて分析・考察する。

3. 研究の方法

本研究では、参与観察とアクションリサーチの方法を用いて以上で設定した研究目的の達成のための質的研究を行った。

まず、参与観察については韓国で2回、台湾で3回の現地調査を行った。戦争記憶が観光化されている記念物・記念館・博物館などの施設及び戦時中の宿舎を観光地化するプロジェクト地域に訪れ、戦争記憶がどのように継承されているかを観察し、担当者への半構造インタビューを行った。ただし、初年度の2022年度においては、まだパンデミック状況が完全に収束しておらず、海外調査の頻度が少なかったため、追加で国内の1箇所(長崎県対馬市)を対象とする調査を行った。同地域は、13世紀の元寇の記憶を観光資源として活用する政策を進めており、軍港地域ではないものの、戦争記憶の観光化について大いに参考になる調査ができた。

次に、アクションリサーチは、研究者が所属する大学に隣接する広島県呉市を対象に研究期間中に行われた。本助成金と大学の産学連携プロジェクトの予算を活用し、戦争記憶を活用する新たな観光資源創出プロジェクトである呉海軍グルメに対し、研究者がプロジェクトの一員になり、観察、インタビュー、さらに呉海軍グルメを活用した観光活性化イベントの企画・運営にも関わった。呉では、平均で月2回の現地調査を行った

4. 研究成果

本研究の成果として以下の3点が挙げられる。

(1) 学術論文及び書籍

Kyungjae Jang (07 Mar 2024): Real in virtual or virtual in real? Intersecting virtual and real experience in open-world video games and heritage tourism, Journal of Heritage Tourism, DOI: 10.1080/1743873X.2024.2322424 : 本論文は、追加調査を行った長崎

県対馬市の事例に基づいた論文であり、同分野の著名学術雑誌である *Journal of Heritage Tourism* で出版された (ESCI)。同論文では、戦争記憶が如何に大衆文化 (ゲーム) に表象され、その表象が如何にデスティネーションイメージを作り、潜在的な観光同期を作るのか、さらにそれが地域の観光政策に反映されるのかを明らかにした。

Kyungjae Jang (2024、近刊): *Disconnection and Continuity of War Memories and Battleship Yamato*, in Rudi Hartman (Ed.) *Tourism, Memorials and Landscapes of Violence*, Routledge :本チャプターは、呉市海事歴史科学館 (大和ミュージアム) においてどのような戦争記憶の継承が断絶と連続のせめぎあいの中で行われ、さらに同施設が地域を象徴する観光施設となり、デスティネーションイメージの構築に寄与しているかについて分析した。

(2) 学会会議の開催 (Popular culture tourism stakeholder summit in Japan)

研究成果のまとめ、そして上記に述べたアクションリサーチの一貫として、1月19日~21日に、研究者が主催となって呉市にて Popular culture tourism stakeholder summit in Japan を開催した。本行事は、地方自治体、政策立案者、DMO、研究者、大衆文化のクリエイターやファン、文化・教育機関、観光関連企業などの民間セクターのステークホルダーが、自由に議論するためのユニークなプラットフォームを提供することを目的としています。大衆文化と観光をめぐる様々な問題・課題について、多様な立場・角度から意見を交換し、情報と実践経験を共有することで、持続的な大衆文化観光づくりの一助となることを目指した。国内・海外から約 60 人の研究者をはじめ、観光関連の事業者が集まった。

また、アクションリサーチの一貫として、呉海軍グルメを積極的に取り入れる他、海軍グルメを題材とする漫画作品『艦隊のシェフ』の著者らとのイベントも企画した。

5 . 参考文献

Seaton, P. (2019). War, Popular Culture, and Contents Tourism in East Asia, *Journal of War & Culture Studies*, 12:1, 1-7,

Sugawa-Shimada, A. (2019). Playing with Militarism in/with Arpeggio and Kantai Collection: Effects of shōjo Images in War-related Contents Tourism in Japan, *Journal of War & Culture Studies*, 12:1, 53-66.

Uesugi, K. (2019). Selling the Naval Ports: Modern-Day Maizuru and Tourism, *Japan Review*, 33, 219-246.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Jang Kyungjae	4. 巻 -
2. 論文標題 Real in virtual or virtual in real? Intersecting virtual and real experience in open-world video games and heritage tourism	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Heritage Tourism	6. 最初と最後の頁 1~16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1080/1743873X.2024.2322424	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 張慶在
2. 発表標題 交差するイマジネーションが創り出す新たなフードリズム×コンテンツリズム: 「呉海軍グルメ」の事例から
3. 学会等名 間野山研究学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Popular culture tourism stakeholder summit in Japan	開催年 2024年~2024年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
オーストラリア	Edith Cowan University		